

# 写真でたどる バードの道

11/10 (土)

13:30 - 16:30

沙流川歴史館 レクチャーホール

沙流郡平取町字二風谷 227-2

参加費：無料 事前申込みは必要ありません。  
直接会場へお越しください。

明治11年、イザベラ・バードは  
北海道に分け入った。

明治11(1878)年、英国の旅行家イザベラ・バードは、函館、室蘭、白老、平取を訪れ、その気候風土や人々の暮らしを著書『日本奥地紀行』で世界に紹介しました。彼女の残した足跡は、現代でも高く評価され、その功績を継承する活動が行われています。

北海道命名150年の今年は、バードが平取を訪れてから140年に当たります。バードの視点を通して、未来に向けた新しい価値を創造する契機となることを目的として、本シンポジウムを開催します。

- ◆基調講演：藤女子大学准教授 松本 あづさ氏
- ◆部門報告 酪農学園大学教授 金子正美氏  
北ノ森自然(じわん)伝習所 三木 昇氏  
菅野茂二風谷アイヌ資料館館長 菅野 志朗
- ◆部会報告 PENSION風KAZA・自然ガイド(七飯部会) 金澤 晋一氏  
環境教育活動家・自然写真家(室蘭部会) 笹森 琴絵氏  
フットパスネットワーク北海道「FNH」会長(白老部会) 新岡 幸一氏  
(株)ノーザンクロス(平取部会) 柳 秀雄氏
- ◆パネル展示・スライド上映 など



# 写真でたどる バードの道

## ◆シンポジウム タイムライン

13:30	開会挨拶	NHK 室蘭放送局制作の、道南から平取までドローンでの空撮を交えた「バードの道」を放映します。	14:55	部会報告	各地域の部会の会員より、それぞれの立ち位置からバードの歩いた地域の価値をご紹介します。
13:35	オープニング映像		15:35	トークセッション	出演者全員によるトークセッションと、参加者を交えた質疑応答・意見交換です。
13:40	基調講演	各部門の専門的視点から、バードの道をめぐる価値を深く掘り下げてご紹介します。	16:05	質疑応答	
14:10	部門報告		16:15	閉会挨拶	
14:40	休憩・映像放映	バードが見た(であろう)義經神社の「義經公神像」の映像や、NHK 製作番組を放映します。			

### 基調講演 13:40~



## イザベラ・バードが旅をした 1878年の北海道

松本 あづさ 藤女子大学准教授

北海道平取町の出身です。平取中学校を卒業後、札幌北高校・北海道大学に進学しました。北大在学中、授業や図書館で蝦夷地に関する古文書や絵図に触れる機会があり、北海道の歴史に興味を持ちました。現在も古文書をもとに北海道の歴史を研究しています。今回は、イザベラ・バードが旅をした1878年の北海道の時代状況を確認しながら、バードが残した著作の意義を考えてみたいと思います。

### 部門報告 14:10~



## 地図から見るバードの道

金子 正美

イザベラ・バードの道を辿る会会長・  
酪農学園大学 環境共生学類 教授

バードが歩いた道の変遷を追跡してエコ・ツーリズムに活かす手法を考え地域の活性化に資することを目的として、イザベラ・バードの道を辿る会は2007年に設立されました。バードが辿った道は、明治期から現在までの地形図を地理情報システム(GIS)上で重ね合わせることで、現在の地図上に明らかにしました。当時と現在で何が違って、何が変わっていないか、地図からの視点でお話します。



## バードの見た風景(動植物から)

三木 昇

北ノ森自然(じねん)伝習所

林学を学んだのち、林業会社に勤務、そののち植物の調査業務に従事。平取には辻井達一先生とのご縁で、平取ダムアセス、文化的景観の調査に長らく従事している。北ノ森自然伝習所を主宰して、カルチャーセンター講師として平取に足を運ぶ。

シンポジウムではバードの旅日記に書かれた自然描写の断片から、バードの見たであろう日高海岸地方の自然について思いを馳せます。これらから、自然好きバードおばさんについて考えバードを読む楽しさについてもお話を広げます。



## バードが触れたアイヌ文化(食から)

萱野 志朗

萱野茂二風谷アイヌ資料館館長・学芸員

イザベラ・バードについては、父の萱野茂や北海道ウタリ協会(当時)副理事長で二風谷アイヌ語教室の初代運営委員長だった貝澤正さんが、明治期の話題になると、よく彼女のことを紹介していました。シンポジウムでは、バードが残した食に関連する文化の記述と、現在の調査・研究の成果や映像記録、そして私の幼い頃からの体験を通じた記憶などを照らし合わせて、今後活かす方策についてお話します。

### 部会報告 14:55~



## 道南の道

金澤 晋一

イザベラ・バードの道を辿る会 七飯部会長、自然ガイド

イザベラ・ルーシー・バードが歩いてから140年の歳月が流れました、私たちはかすかに残っているかもしれない、彼女の見たもの聞いたものを旅行記から感じ取ろうと、おそらくそこに立ったであろう場所に目を凝らし、おそらくそこで感じたであろう風に吹かれ、自分の視点を封じ込め、鳥のようにその跡を辿ってみました。



## バードを迎えた海の道 ~噴火湾と、そこに暮らす生き物たち

笹森 琴絵

イザベラ・バードの道を辿る会 室蘭部会長  
酪農学園大学特任准教授  
日本クジライルカウォッチング協議会会長

室蘭生まれ、室蘭在住。海洋生物調査、環境保全・教育活動に従事。国内行政および英・米の環境教育組織などのコラボによる環境教育・啓発活動や、日露合同北方四島生態系調査、6カ国合同ヨスコウカワイルカ調査、知床・釧路沖シャチ調査など、主催および参加多数。シンポジウムでは、バードの目に映ったであろう美しい海・噴火湾と様々な生き物の姿を、同じく未知の世界を旅する女性としての視点も交えながらご紹介いたします。



## バードと白老の道

新潟 幸一

イザベラ・バードの道を辿る会 白老部会長  
フットパスネットワーク北海道「FNH」会長

函館生まれ、白老在住。「私は白老が大好きだ」とバードは日本奥地紀行に記述し、この文章に私は虜になった。世界各国を旅しているバードが、未開の蝦夷地、かつ田舎町の白老の名を挙げていた。何が印象に残ったのだろうか。自然、夕日の美しさか、奥地の温泉を見つけて作ったゆで卵か、野生馬の荒々しい調教の様子か、観別でのアイヌ民族との触れ合いか…。私なりにバードになった気持ちで白老の道を踏査した、活動の記録をご紹介します。



## 旅の終着地 - 沙流川流域の道

柳 秀雄

株式会社ノーザンクロス  
イザベラ・バードの道を辿る会 平取部会

前顧問の故辻井達一先生の呼びかけにより2007年5月のイザベラ・バードの道を辿る会が発足して以来、前事務局長の故窪田留利子氏を中心とする解説板の制作、フットパスルートの企画、シンポジウムやパネル展の開催などの活動に携わってきました。現在、同社平取事務所に在籍し、文化的景観の視点からもイザベラ・バードの足跡を紹介しています。旅の終着地平取でのバードと我々の接点を探りながら、お話しできればと思います。

